

私の中の「One world, One health」

高橋英雄[†]（エイ・ランドおゆみ野動物病院 院長）

私は現在小動物の病院を開業して27年を経過したが、それ以前は千葉県農業共済組合連合会（NOSAI）で乳牛の診療に従事していた。現在の小動物の診療に関し、過去の乳牛の診療が大変役に立っている。診療というよりも考え方、自分自身、あるいは当院の方針の基本がそこにある。

2本立て給餌法で著名な渡辺高俊先生に直接ご指導いただき、2本立て方式や繁殖障害の対応の考え方が、今の小動物診療の上で大変役に立っている。酪農家の方は、利益を追求し、乳量を増やすために濃厚飼料を多給する。すると牛は体調を崩し、さらに繁殖障害になり、生乳を搾れなくなる。そして投薬によっては残留により出荷もできなくなる可能性がある。したがって酪農家の経済が悪化する。そこで、牛の体調を整えるためには、粗飼料を与えた方がよいのだが、すると乳量が減る。このバランスを考え、指導するのがわれわれ獣医師の仕事であり、それでも病気になれば当然できる限りの治療を施す。これが私が乳牛の獣医師として先輩や酪農家の方々から教えていただいた診療のあり方であった。

現在、小動物の病院で、なぜそのことが役に立っているかという、家族の一員である動物たちの飼い主は、当然愛情を与えたいと考えている。これは、酪農家が乳量を増やして利益を得たいという考えと似ている。その与え方を間違えると病気になったり、行儀の悪い（問題行動）動物になってしまう。その愛情のかけ方、方向性を整え、それでも病気になってしまったら、飼い主として前向きに病気と立ち向かえるようにし、われわれもしっかり対応できるようにすることが私の獣医師像である。そして、われわれ獣医師は、とかく病気を治すということに重点を置きがちであるが、飼い主は病気を望むわけでもなく、いつまでも健康であってほしいと考えている。したがって、われわれも病気を治すということ以上に病にならないようにする予防獣医学を大切にしなければならない。そのためには、動物のことをしっかり理解する必要がある。乳牛の診療にかかわっていた時、大先輩である農家の方を大学卒業後、数年の獣医師が指導するにあたって、牛のことをしっかりと理解していなければ、農家の方に相手にされなくなる。農家とのコ

ミュニケーションをとるために牛の直腸検査をしながら体型、骨格、乳房の形などで、種牛の名前を当てるなど、牛に対する知識を高めた。

現在、いろいろなセミナーが開かれ、病気の診療に関する知識は、大変高度になっており、動物たちの命を救うことが可能になってきている。これは大変良いことではあるが、さらにもう少し、自分たちが扱っている動物の理解を深め、病気を防いでいきたい。しっかり理解していかなければ、飼い主が納得いく飼育指導、病気の予防ができないと思う。

また、NOSAIに所属していた時、昭和59年から61年までの2年間休職して、青年海外協力隊に参加させていただいた。当時は大変平和であったシリアで乳牛の獣医師として現地技術者の指導と診療業務をしていた。そこで日本の良さをあらためて感じた。島国であるということが感染症に関して大変有利になっている。それでもグローバル化により、新興感染症、再興感染症の危険を感じている。現在、自分の中で、まだ何もできていないが感染症に関する仕事をライフワークにしたいと考えている。

日本獣医師会が提唱している「One world, One health」がまさにそれであると考えている。「人と動物の健康は一つ」、「世界の健康は一つ」、動物の健康を守ることが獣医師の仕事であることは、ひいては人の健

高橋英雄

—略歴—

1981年 酪農学園大学 卒業

1981～1988年

千葉県農業共済組合連合会 勤務
(1984～1986年 休職、青年海外協力隊 シリア赴任)

1989年 エイ・ランドおゆみ野動物病院開業

現在に至る

2009年 博士(医学)取得(千葉大学大学院)
(公社)千葉県獣医師会理事、感染症委員会委員長

[†] 連絡責任者：高橋英雄（エイ・ランドおゆみ野動物病院）

〒266-0031 千葉市緑区おゆみ野 3-31-3

☎ 043-291-8622 E-mail : aland@peach.ocn.ne.jp

康を守り、さらに世界の健康を守ることに通じると思う。台湾において2013年に52年ぶりに狂犬病の感染が確認された。グローバル化により、世界がだんだん狭くなってきている。日本では1957年以来58年間、動物での狂犬病の感染はみられていないが、他人事ではなく、明日はわが身と考え、万が一、日本へ狂犬病が入ってきてもまん延を防ぐために、犬の狂犬病ワクチン接種を勧めていきたい。

さらに、ペット（伴侶動物）と生活することは、人の精神面、身体面のケアにも役に立っている。子どもたちが巣立った後、夫婦の橋渡しにもなっている家庭があ

る。子どもたちの情緒教育にも大切な役目を果たしている。一緒に散歩などの運動をすることで、人の生活習慣病の予防、治療にも役に立っている。その動物たちの健康を守っているのが、われわれ獣医師である。さらに動物病院に来るペットたちにワクチンやノミ・ダニの駆虫薬を施すことにより、環境の安全性を高め、レプトスピラや日本紅斑熱など人の健康を脅かす病気の人への感染を制御していることにも関与している。このようなことを意識し、普段のペットの診療をしていることが、「One world, One health」の精神であると思う。